

各室意見書（課題の共有を目指した研究提案）①自由テーマ

協働研究の名称 「DV防止のための予防教育・啓発を如何に進めていくか」

室名 高校教育室

担当者名 長谷川 敦子

審査項目及	意見の視点	担当室意見
①提案の 目的の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 提案の目的は明確かつ妥当と認められること。 「新しい時代の公」の考え方が提案に反映されていること。 NPOのミッションとの関連が<u>適当</u>と認められること。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案の目的は明確であり、妥当性もあると考えますが、協働研究の内容については、問題が顕在化しているかどうか不明である10代のデートDVに特化されており、提案の目的を達成する協働研究として最適であるとは認められません。 「新しい時代の公」の考え方については、提案に反映されていると考えます。
②提案の県との 協働の必要性 (協働の効果・利 点・NPOと県の 役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> NPO独自で行うことができず、<u>県と協働で行う必要性</u>が高い内容と認められること。 NPO若しくは県が<u>単独で行うより高い効果</u>が挙げられる可能性が認められること。 NPOと県の役割分担や<u>公的関与の必要性</u>が明確かつ妥当と認められること。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを実施する学校の選択は県が担うとありますが、問題が顕在化しているかどうか不明である10代のデートDVについてアンケートを実施する学校を県が選定することはひじょうに難しく、協働で本事業を行う必要性は低いと考えます。
③提案の 緊急性・重要性、 先駆性・先見性、	<ul style="list-style-type: none"> 提案の<u>緊急性</u>やその実施が<u>重要</u>と認められること。 提案内容にNPOの<u>先駆性</u>が活かされていると認められること。 課題の内容に<u>先見性</u>が認められること 	<ul style="list-style-type: none"> 10代のデートDVという問題が地域社会において最重要問題になっているかどうかは不明であり、緊急性については不明確です。またDVの問題をデートDVに特定して全高校生に緊急に指導すべきかどうかという点については論点が整理されていません。
④提案の 具体性・実現性 (事業遂行能力、 予算の妥当性)	<ul style="list-style-type: none"> 県の担当者と一緒に研究し、研究成果を<u>練り上げ</u>、事業を<u>遂行する能力</u>を有していると認められること。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、県立高等学校においては、学力の定着向上を目指して授業時間の確保が求められており、さらに、社会のめまぐるしい変化に対応していくため、教科・科目以外にも、ボランティア、キャリア、金融、法、男女共同などの教育を一層推進することが求められています。そのなかで、各校において、提案内容にあるデートDV防止プログラムを実施することは時間的に難しい実態があり、協働研究としての実現性には難しい面があります。

		<ul style="list-style-type: none">デートDVプログラムやアンケートを実施するとありますが、事前に必要となるDVに関する啓発や周知、幼少時からの人権意識にかかる啓発などとの系統的な関連性が不明であり、実現するには一般啓発などの条件整備を含めた事前の諸準備が必要と考えます。
--	--	--

※この意見書は、NPO室のホームページで後日公開する予定です。